

異様な展開「明石市長選」 泉氏が告示日直前に“参戦”表明

公開討論会にも出ず、市民への説明責任 3度回避した挙句

3月10日に告示される明石市長選挙は、自らの暴言問題で2月初めに市長を辞職した泉房穂氏が告示直前になって7日夜に出馬を表明し、またまた波乱続きの展開になりました。すでに2日には新町美千代、中川暢三、北口寛人の3氏が市民自治あかし主催の公開討論会に出席し、真っ向から政策討論を行ったばかりで、市民と政策を議論する公開討論会が終わった翌日から出馬へ向けての動きを始める異様な展開になりました。

「市民自治のまちづくり」を掲げた自治基本条例が施行10年目に入る市長選挙で、事実上の“現職市長”が暴言問題とともに、市民への説明責任の回避を続けた「市長の資質」も問われることになりました。

暴言問題と説明責任 「市長の資質」が争点に

今春の明石市長選挙は、昨年12月に現職の泉氏が3選出馬することを表明したのに続き、前市長の北口も12月に立候補を表明し「現職と前職」が真っ向から政策をかけて闘う構図になっていました。

ところが、1月末になって泉市長の職員に対する暴言問題が表面化し、同氏は29日即日「全面謝罪」しました。この時点では、泉氏は辞任や4月の選挙への出馬見送りは否定し、立候補の意向を示していました。暴言問題が全国に連日報道される中で3日目の2月1日、同氏は突然「発言の責任を取る」と辞職願を提出し、市議会は翌2日全員一致で可決しました。

市民自治あかしが翌3日に開催予定していた

「泉市政の市民マニフェスト検証大会」という、市民に暴言問題を直接説明できる絶好の機会をキャンセルし、19日から本会議が始まる3月市議会での説明の機会も放棄しました。18日の後援会集会でも謝罪に終始し、選挙を考える立場にないことを繰り返して、3月2日の市長選挙公開討論会にも「謹慎中の身で、そのような立場にない」として出席を拒んできました。

その一方で、支持者らが集めた「市長継続を求める署名」を受け取る集会を3日に行い、この日も出馬については触れないまま、5日には取材に答えて「出馬の意向」を初めて明らかにし、7日の後援会集会と記者会見を予定する経緯をたどりました。

説明責任回避の姿勢は、この4年間の泉市政の特徴

事実上の現職が、なぜ選挙告示直前の出馬表明になったのか？ 選挙前に候補者同士が市民の前で政策を討議し、市民の質問に答える公開討論会になぜ、出席しなかったのか？ 支持者への出馬表明には答えるが、なぜ一般市民や有権者の質問に堂々と答える機会を避けたのか？ 不可解な疑問が残ります。

市民自治あかしが先月公表した「泉市政の検証評価」結果にも明らかのように、泉市政発足当初と違ってとくに2期目以降は説明責任を回避する傾向が強まっていました。市役所庁舎の建替え問題、住民投票条例案の改ざん、フェリー埠頭のマンション開発許可など、少なくない問題で繰り返されてきました。市民参画と協働、情報の共有を市政運営の原則とする中で、なぜなのか？ 選挙の大きな争点になります。

立候補予定3氏が「市民マニフェスト」で政策討論

市長選公開討論会

告示1週間前 予定者揃う

泉市長の突然の辞職で繰り上がった市長選挙の告示まで1週間に迫った3月2日午後2時から、明石市民会館中ホールで「市民マニフェスト公開討論会」が開かれた。当日までに立候補を表明していた3氏がそろって出席。2時間30分あまりにわたって真剣な討論が行われた。

討論会は市民自治あかしが主催し、2011年の市長選以来3回目の開催。市長の暴言問題による引責辞任で連日大きく報道されていたこともあって満員の参加者を期待していたが、前回の約半分の140名あまりにとどまり、政策論争への関心がいぜん低調であることを物語った。

討論の中で、今回の暴言問題の背景にある明石市政の構造的な問題に対しては「全職員と対話を重ね市長と職員が一緒に苦労を共感するシティマネージャーの仕組みをつくる」（中川氏）「市長時代にトップダウンに過ぎたことを自己反省し、庁内の風通しを良くし、悪い情報も共有していく危機管理を進める」（北口氏）「パワハラをなくすために市長自らが手本になり、職員がトップの顔を伺うようなことのないよう、憲法を市政に活かす」（新町氏）と語った。

また、市長の説明責任については「コトが起きた時に不都合なことも含めてしっかりと説明する責任がある。まず市議会で説明し、タウンミーティングなどを活用してきめ細かく市民の中に入り説明を尽くすことが大事」

（北口氏）「市民が納得できる説明をまず議会でしっかり行い、そのうえで本来の選挙の中で市民に語るべきだった」（新町氏）「市長にはすべての情報が集中しているのだから、まずはトップが説明責任を果たすのは当然のことだ。辞職よりもまず市民への説明が肝心だ」（中川氏）と話した。

3氏はいずれも、自治基本条例を遵守することを誓い、住民投票条例の早期制定を唱えた。

討論の詳細は市民自治あかしのHPにアップしている中継録画を視聴してください。<http://shiminjichi-akashi.net/>

市議会選挙立候補予定者の公開討論会

3月24日（日）夜7時～9時30分
市民会館中ホール 現職、新人に呼びかけます



抗議声明

泉房穂・前市長は、3月2日の「市長選挙立候補予定者による公開討論会」の開催に際して「謹慎中の身で、そのような立場にない」と欠席し、出馬の意思を否定しました。しかしながら、泉氏を推す団体に応える形で選挙告示直前になって立候補を表明しました。

1か月余にわたって選挙への対応を明言しないまま、暴言問題についての説明責任を果たす機会を次々に避け続けた揚句のこのような対応は、市民への背信行為でもあります。同氏は暴言問題で市長としての資質を問われたことに加え、在任中も市役所庁舎の建替え問題や住民投票条例案の改ざん、フェリー埠頭のマンション開発許可などでも「説明責任」を回避する体質が問われてきました。

在任時の市政についての評価は公正に行われるべきですが、泉氏は「前市長の知名度」に依存した選挙に臨もうとしています。もし当選した場合は4月30日で任期満了となり、再び市長選挙が行われます。わずか1か月余りのために多額の税金が使われる事態を回避する努力もなされないままです。

自治基本条例に基づく市長の責任と公正な市政運営を求める政策提言市民団体である市民自治あかしは、この時期になつての泉氏の突然の出馬表明に疑問を呈し、抗議の意思を表明します。

全国から注目されている市長選挙で、主権者市民が恥じることのない投票をこぞって行うよう呼びかけます。

2019年3月8日

政策提言市民団体 市民自治あかし